

# 県にコロナ対策など60件要望

## 令和4年度市重要事業要望(案)議会説明

令和4年度鶴岡市重要事業要望(案)について14日、議会に説明がありました。

・感染症拡大に伴う生活困窮者等に対する支援強化

②酒井家庄内入部400年記念事業の推進  
③脱炭素社会づくりに向けた支援

④風力発電事業等に係る許認可等手続きにおける地元意見の反映  
⑤国民健康保険税(料)の統一

・感染症への対応に係る財政支援  
・経済的な影響を受けている事業者に対する支援の拡充

国保税の要望に共産党市議の討論生かされる

**赤川水系流域治水プロジェクト**  
～関係機関と地域が連携し、赤川治水を水害から守る治水対策の推進～

○令和2年7月豪雨や令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、赤川水系においても、事前防災対策を進める必要があり、以下の取り組みを実施していくことで、国管理区間においては、赤川の堤防が決壊し、流域で甚大な被害が発生した観測史上最大の昭和15年7月洪水と同規模の洪水を安全に流下させ、流域における治水被害の軽減を図る。

**位置図**  
山形県 鶴岡市 赤川

**■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策**  
○河川区域での対策  
・河川敷の整備、堤防整備、堤防工事業  
○洪水域での対策  
・砂防堰堤等の整備  
・高水時の避難  
・利水ダム等システムにおける事前防災等の実施、体制構築  
・(前年度) 国、山形県、東北電力(株)など  
・森林整備、治山対策  
・下水道施設(処理場)の耐水化

**■被害対象を減少させるための対策**  
○公営区域での対策  
・土地所有関係(建物)の災害危険区域等  
・土地適正化計画に基づく居住誘導  
・家屋移転、かさ上げ補助制度の創設

**■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策**  
○公営区域での対策  
・被災由費利用助成の迅速な貸付体制の促進  
・被災由費以外の治水対策  
・議員会等によるタイムライン普及促進  
・広域連携による避難体制の強化  
・被災者等支援拠点の機能確保  
・水防団の育成・増強

**■河川対策**  
対策内容 堤防整備、河道掘削、堤防工事業 等

**■砂防対策**  
対策内容 砂防堰堤整備 等

**■下水道対策**  
対策内容 雨水幹線の整備 等

資料: 第3回赤川流域治水協議会(2021年2月18日)から

3月議会で日本共産党市議団が提出した国保税引き下げの条例改正での、坂本昌栄議員の賛成討論が生かされています。

坂本議員は、「本市では市民の後発医薬品(ジェネリック)使用割合は、全国の市の中で第7位88・2%と非常に高く、医療費の引き下げに大きく貢献している」

「国保税(料)の統一は、全国市長会も地方分権に反するとして反対の意見書を提出している」と指摘しました。

保険税(料)統一について、県では3月に国保運営方針の一部改



同様の事案が発生した際には、党市議団や市の防災安全課へ連絡して下さい。

定を行い、「県と市町村による議論を深め、次期運営方針に議論の結果を反映する」と明記しています。

### 鳥獣害対策、洪水対策の問題点を指摘

議会説明会では、菅井巖議員が鳥獣被害防止対策の推進について、現場では予算が不足していることを指摘し、対策を強めることを求めました。

加藤一議員は、洪水対策で水位予測システムの導入などを上げているが、「流域治水」が明記されていないことを指摘し、赤川流域で豪雨の際に遊水池を

要望日程は、5月19日に庄内総合支庁要望会、7月に県知事要望会を予定しています。

設けるなどの対策を求めました。

昨年7月の豪雨災害を受け、国交省山形河川国道事務所では、令和2年9月15日に最上川流域治水協議会、9月18日に赤川流域治水協議会を設立し、洪水対策では「流域治水」政策に大きく転換しています。



JCP鶴岡地区HP

## 暴風雨で空き家が損壊 今後被害多発が危惧

17日からの暴風雨により、美原町の空き家で「屋根のトタンが剥離している」と、市民から共産党市議団に声が寄せられました。

菅井巖議員が市防災安全課へ連絡し、消防が駆け付け、民生委員が立ち合いの確認後、対応となりました。

空き家は、民家と空き家に挟まれており、住民への被害はありませんでしたが、今後も暴風等により各地の老朽化した空き家の被害が多発するのではないかと危惧されます。

坂本昌栄議員は現場に向かい、民生委員と消防の連携を図りました。

# 比例を軸に、党支持を広げることが一番大事

## 総選挙・市議選勝利目指す山形県選挙学校

来るべき総選挙と、市議選勝利を目指す山形県選挙学校が17日開かれ、党中央委員会選対局の田熊和貴氏が講演しました。

### 総選挙―党の歴史上初めて政権交代を掲げる選挙

田熊氏は、2つの選挙を連続して(同時に)たたかう構えについて話しました。

総選挙の意義と目標は、政権交代と野党連合政権の実現で、憲法をまじめに実行する政府をつくること、

①市民と野党の共闘の勝利、

②党自身の躍進で、850万票の獲得、東北で2議席をはじめ全国11ブロックすべてで議席増を実現することだと強調しました。

政権交代を掲げる選挙は1世紀にわたる党の歴史上でも初めての経験であり、日本の政治をみても憲法を誠実に実行する初めての政権の樹立であり、力を尽くそうと呼びかけました。

### 市議選―総選挙と連続してたたかう、相乗的に取り組む

10月10日投票の鶴岡市議選の目標と位置づけとして、「一番は大幅得票増であり、現有維持ではなく、得票を大幅に増やさないと勝利はありえないという

攻めの選挙にしなければ勝利の保障がない」と話しました。

「市議選は市民の暮らしとあり方が問われる選挙。」

しかし、総選挙と連動してとなる。

市議選は候補者の人物像も重要だ。

市政をめぐる論戦では、国政はメディアで取り上げられるが、市政はみんなが頑張らなければ見えない。

総選挙・市議選を連続してたたかう、同時に独自に相乗的に取り組むこと。

総選挙の上に市議選をなどとなるとうまくいかない。

比例を軸に、党への支持をどれだけ広げることが一番大事な要素に。

2つの選挙をめざして大事な点は、様子見に陥らないこと。特別期間に全力を注ぐことだ」と訴えました。

### つどいを無数に開き、党を自分の言葉で縦横に語る

新しい挑戦として、「つどいを少人数で無数に開き、党そのものをわかってもらう。積極的な支持者を増やしていく取り組みを重視し、党を自分の言葉で語ることが大事」と話しました。

有権者が広く認めている共産党への印象は、「ふれないで筋を通す。

タブーを恐れず真実を伝える党。

党だけでなく主権者の国民が政治をかえる。

自主独立の党であり、政治資金も清潔で、主権者のお金でたたかう党など、縦横に語る」と呼びかけました。

また、広い層との協力、共同の探求を進めることが重要だとし、「菅政権発足時70%の支持率が半年間で40%に低下した。

令和2年度第3回鶴岡市廃棄物減量等推進審議会が3月24日開かれました。

### 令和2年度第3回市廃棄物減量等推進審議会

## ごみ排出量、国・県平均と大きな差 減量が必要

令和3年度の一般廃棄物の処理計画などを審議しました。

当局から、新しいごみ焼却施設が4月から試験運転に入り、10月に本格稼働することと、海岸漂着ごみ対策と本市のごみ処理の課題などについて報告がありました。

総量減少も1人当たり排出量横ばい

本市のごみ処理の課題としては、家庭系ごみと事業系ごみの総量は減少しているものの1人1日当たりのごみの排出量は横ばい傾向で、国・県の平均値と大きな差(市596

多くの有権者が期待はずれでだまされた。期待したがだまされたと怒っている。

従来の支持者の枠組みにとられず、今まで他党支持のところにでも出かけていこう」と呼びかけました。

### 党員・後援会員の持てる力の総発揮を

田熊氏は、一人ひとりが持つ結びつきにもれなく支持を呼びかけることが、5人勝利のカギを握っていると語りました。

「党員や後援会員の

結びつきは全市的にある。

5人の候補者を5つの地域割りで支持を広げるわけだが、自分の地域の候補者だけ支持を拡げると5分の1だけが対象になり、5分の4を捨ててしまうことになる。

全候補の勝利に責任を持ち、地域割りに沿って、その候補者の支持を呼びかける。

そのためにも出足早い取り組みを」と訴えました。

最後に党市議団が決意を語りました。

ごみの排出量が多い数値だが、他市との違いはどのようになっているか」と質問が出されました。

これに対し、当局から「本市は人口減少しているが、世帯数は増加しており、世帯ごとの排出量は増える傾向だ。また広域であることが特徴だ。過去には野焼きしていたものも禁止になった。県内では家庭ごみの有料化地域もありそのことの差がある」といった回答がありました。

長谷川剛市議が傍聴参加しました。



長谷川剛議員

## メーデー集会、今年も中止

### 新型コロナの影響で街宣車が市内巡回

5月1日の鶴岡田川地区メーデー集会は、新型コロナウィルス感染症の影響により、昨

年に続き中止となりました。街頭宣伝車が市内を回る予定です